

○甲斐 裕子 (財・明治安田厚生事業団 体力医学研究所)  
金森 悟 (順天堂大学 医療看護学部)  
岩井 梢 (NPO 法人 ウェルビーング)  
荒井 弘和 (法政大学 文学部 心理学科)

【背景】 ボランティア等の社会的活動への関心が高まっている。健康づくりの分野でも、○推進員や○○体操リーダーなど地域での社会的活動を自治体が支援することが多い。中高年齢期の社会的活動への参加は、本人の生活満足度や健康度の向上にも寄与する。しかし、地域での社会的活動に熱心な住民がいる一方で、全く関心を示さない住民層も存在する。地域での社会的活動に関心を持つ「きっかけ」を知るとは、多くの住民にアプローチする方略を考える上での有用な基礎的情報となる。

【目的】 中高年者が地域における社会的活動に関心をもった「きっかけ」を明らかにした。

【方法】 50～64歳の103名の男女を対象にした。株式会社マクロミルの登録モニターに対して、2010年11月にインターネット調査を実施した。年齢が該当する登録モニターに電子メールで依頼し、回答が100名に達した時点で調査を終了した。本調査では、「現在住んでいる地域における社会的活動（ボランティアなど）について、どのように考えていますか」に対する回答によって、社会的活動の変容ステージを評価した。回答は、「全く関心がない（無関心期）」から「すでに6ヵ月以上継続して行っている（維持期）」の5段階とした。無関心期以外の対象者には「住んでいる地域における社会的活動（ボランティアなど）に興味・関心を持ったきっかけは何ですか」と質問し、自由記述で回答を得た。分散分析および $\chi^2$ 検定によって変容ステージ間での対象者特性（年齢、性別、仕事の有無等）を比較した。興味・関心をもったきっかけについては、KJ法で情報を整理した。

【結果】 社会的活動の変容ステージは、無関心期27名（26.2%）、関心期61名（59.2%）、準備期4名（3.9%）、実行期1名（1.0%）、維持期10名（9.7%）であった。準備期以上をひとつの群とした上で、ステージ間の特性を比較したところ、性別、年齢、学歴には有意差は認められず、仕事の有無のみ群間差が認められた。社会的活動に関心をもったきっかけは、以下の5つのカテゴリに分類することができた。

- ①自発的な思い：地域や人の役に立ちたい、地域の人と交流したい、お互い様の気持ち
- ②ライフスタイルや自分の変化：定年、時間的なゆとり、自分の衰え
- ③これまでの経験：ボランティア、地域内での役職、経験を生かせる仕事、介護
- ④地域の特定領域への関心：環境、地域、子供、高齢者、防災・防犯、観光
- ⑤外部からの刺激：身近な人の影響、公的情報

#### 【ラウンドテーブルでの検討課題】

より多くの人々が地域での社会的活動に関心を持つようになる方略について議論したい。

地域保健に関わっている方や関心のある方のご参加をお願いします。特に、健康づくりボランティアの支援や養成に関わり、多くの住民を集めた経験のある方は大歓迎です。

(連絡先) 甲斐 裕子  
財) 明治安田厚生事業団 体力医学研究所  
〒192-0001 東京都八王子市戸吹町 150  
TEL: 0426-91-1163 / FAX: 0426-91-5559  
E-mail: y-kai@my-zaidan.or.jp